

成果の説明書

(氏名) 唐澤達之	(学部) 経済学部
1 重要事項 (1) イギリス近世都市における基盤整備に関する研究 2000 年代後半から進めてきたイギリス近世都市における基盤整備に関する研究をさらに展開させるために、近世に都市化が進んだロンドンで飲料水確保のために設立された New River Company 及び Chelsea Waterworks Company 関連の史料収集を London Metropolitan Archives、National Archives などで行った。また、関連する先行研究の収集と整理を行った。 (2) 科学研究費基盤研究 (A) 「近代移行期の港市と内陸後背地の関係に見る自然・世界・社会観の変容」(代表：弘末雅士、立教大学文学部) への参加 2014 年度より交付を受けている標記研究に研究分担者として参加した。担当しているテーマは、イギリス海港都市と後背地の関係であるが、今年度は研究史の整理・文献収集の作業を進めるとともに、標記課題の研究会において「近世イギリスにおける都市と後背地の関係」と題する報告を行った。 (3) 書評「三時眞貴子『イギリス都市文化と教育——ウォリントン・アカデミーの教育社会史——』昭和堂、2012 年」『史学雑誌』第 124 編、第 9 号、2015 年。 (4) 翻訳 (道重一郎氏との共訳) P.コーフィールド「歴史家と大きな歴史像への回帰」岡本充弘・鹿島徹・長谷川貴彦・渡辺賢一郎編『歴史を射つ——言語論的転回・文化史・パブリックヒストリー・ナショナルヒストリー』御茶の水書房、2015 年、所収。	
2 その他の事項 (1) 大学院経済・経営研究科長としての業務 2015 年度は大学院経済・経営研究科長職として任期の 1 年目であった。研究科長として、研究科委員会の運営や入試関連業務といった研究科に関わる通常業務とともに、基本戦略検討委員会、大学基準協会の認証評価に向けての自己点検・評価報告書の作成、第 2 期中期計画の策定など、全学レベルの業務にも多くの時間を割いた。 (2) 学会における活動 比較都市史研究会の幹事として、例会 (年 8 回) の企画、会誌『比較都市史研究』の編集刊行 (年 2 回)、会計の管理などに関わった。また、今年度より社会経済史学会の評議員となった。	
3 次年度以降の計画・抱負 (1) 研究関連では、「1. 重要事項」に記した (1) 及び (2) の研究をさらに進めることが大きな課題である。 (2) 大学行政関連では、2016 年度より副学長職に就くことになるので、第 1 期中期計画 (2011～2016 年度) の最終的な仕上げ、第 2 期中期計画 (2017 年度～2022 年度) の策定、認証評価への対応など、全学的な観点から本学の改革・発展を推進することが大きな課題となる。	